

インプラント治療

歯が抜けたところの顎の骨に人工の歯の根を埋めて、それを土台にして歯を作る治療です。



- しっかりと強く咬める
- 自信を持って笑うことができる
- 左右でバランスよく咬める
- 取り外す面倒がない
- 食事をおいしく味わえる
- 自分の歯にかかる
負担が減って長持ちする
- 歯ごたえのある食物の食感が楽しめる
- 歯を削る必要がない
- 発音が安定して会話を楽しめる
- インプラントはむし歯にならない
- 見栄えよく仕上げることが可能



- 咬む感覚が自分の歯と違う
- 治療期間が比較的長い
- 状況により見た目が
自分の歯と異なることがある
- 食べ物が詰まりやすくなることがある
- 他の歯が抜けて入れ歯を入れる場合、インプラントに不用意にフックをかけるとインプラントにダメージが加わることがあるため、入れ歯のデザインが制限されることがある
- 外科処置が必要
- お手入れ次第で感染することがある
- 治療費が比較的高額

さらにインプラントをしたい場所に十分な骨がないと、治療が難しくなることも欠点です。インプラントが抜けたり大きく壊れたりした時に修理が難しいこともあります。

最近では10年間持ったインプラントが95%あったという報告もあります。

(文献:Albrektsson T,Donos N:Implant survival and complications The Third EAO consensus 2012;COIR,23(suppl6),63-65,2012)

とはいっても100%の成功はありません。インプラントに取り付けたかぶせ物や入れ歯が壊れることもあります。いずれも治療が終わったあのメインテナンスをしっかりしないと長持ちしません。

※本文:公益社団法人日本インプラント学会より転載、一部改変



インプラントってなあ～に?



お問い合わせ

熊本市歯科医師会

HPアドレス <http://kcd8020.com/>
TEL 096-343-6669



熊本市歯科医師会

インプラントってなあ～に？

失ってしまったあなたの大切な歯の
かわりに働く“第二の永久歯”

—食べられる喜び、
若々しくいられる喜び—

—あなたの人生を
豊かにする選択肢—

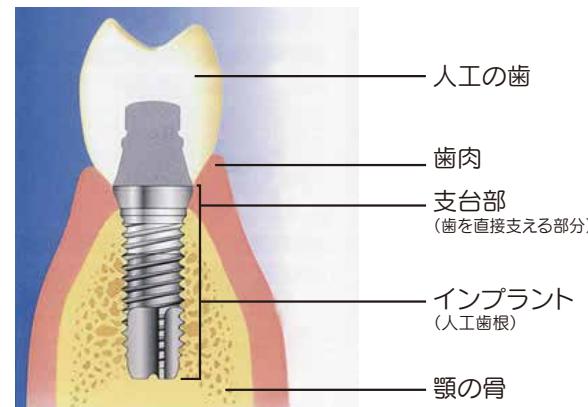
インプラントは、むし歯や歯周病で抜けた歯にかわって咬み心地や見た目を回復するための治療法です。大昔のローマ時代にもインプラントは使われていました。現在使われているインプラントは、50年前ぐらいにつくられ、改良を重ねて非常に性能が良くなり、世界中で使われるようになりました。インプラントは自分の歯のように使い心地がよいために、「乳歯」「永久歯」に続く「第三の歯」や「第二の永久歯」と呼ばれることもあります。歯がなくなってできなくなったり、あきらめていたことが、インプラントによってもとどおりできるようになります。生活に豊かさが戻ってきます。



インプラントでは 次のようなことが可能になります。

- 入れ歯では味わえない歯ごたえのあるものが食べられ、おいしくバラエティーのある食事が楽しめます。
- 左右でバランス良く咬めるので、残っている歯で無理に咬むことが無くなり、自分の歯も長持ちします。
- 入れ歯のように取り外しをする面倒がなく、気軽に外出や旅行が楽しめます。
- 発音が安定するので会話が楽しめます。
- 見栄えのする口元がもどって、気持ち良く笑顔をつくれます。
- しっかりと咬むことにより、かたよりのない栄養バランスのとれた食事がとれて健康に貢献します。

このように暮らしそのものがインプラントによって快適になり、豊かな人生を送ることも夢ではありません。



〈入れ歯やブリッジとの違いは？〉

取り外し可能な入れ歯による治療

いわゆる「入れ歯」で、隣の歯にフックをかけて人工の歯を補う治療です。必要によって隣の歯や他の歯を少し削り、型をとってつくります。



- 保険適応内の義歯は比較的安価
- 治療回数や期間が比較的短い



- 取り外しが面倒
- 咬む力が弱い
- フックをかけた歯に負担がかかる



ブリッジによる治療

両隣の歯を削り、型をとったあとに一塊の繋がった歯を入れる治療です。



- 取り外し式ではない
- 比較的短期間で治療が終わる
- 保険適応内であれば治療費が比較的安価
- 咬む感触が自分の歯と近い



- 隣の歯をたくさん削る
- 支える歯の負担が大きい
- 奥に支える歯がないとできない

